

連載

1

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

腰痛の女性患者さん



「先生、私の体がこんなに痛く苦しいのは、神様から罰をうけているのでしょうか。」

「いや、それは骨粗鬆症こつそしょうせいという病名で、高齢者特有の腰痛です。神経ブロックで治療できますよ。…何かあったのですか？」

「私は昔、隣の男性と満州に夢を求めて海を渡ったんです。その後、突然ロシアの兵隊さんが攻めて来たので命からがら日本へ逃げ帰ってきました。……ですが、彼は病気だったので朝鮮人の友人に大金を渡してお願いをし、私ひとりで日本に帰ってきたのです。……それが一生の心残りだね。」

「それは仕方がなかったね。でも大丈夫よ。治療も終わったし、いつでも往診に来るから心配しないでよ。」

「彼とはきっと将来天国で会えますよ。」

私は彼女にそう言うのが、精一杯だったのです。

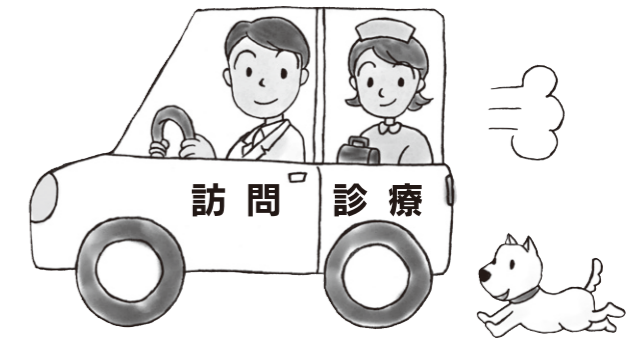
お茶やお菓子を出され、その日は彼女からその様な話を延々と聞くことになったのでした。

以前より私を指導してくれている精神科出身の“やまちゃんナース”からは、お茶やお菓子は出されても気持ちだけいただくようにとのアドバイスがありました。

終末医療には『心の介護』が重要で、医療行為だけでは不十分なんだなあと感じました。患者さんの“魂の叫び”まで聞かなくて…まるで、五木寛之文学の『憂い・哀しみ』の世界だなあと思いました。—— 当時45歳の思い出。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>